

移動に関する消費者の意識・実態

(株)第一生命経済研究所
調査研究本部
ライフデザイン研究部
主席研究員
宮木 由貴子

自動車・自動運転に関するアンケート調査

【調査概要】

- 調査実施：経済産業省調査として（株）第一生命経済研究所にて受託
- 調査対象：全国の18-79歳の男女12,400名
- 調査時期：2019年 1月 7-10日
- 調査方法：インターネット調査（クロス・マーケティング）

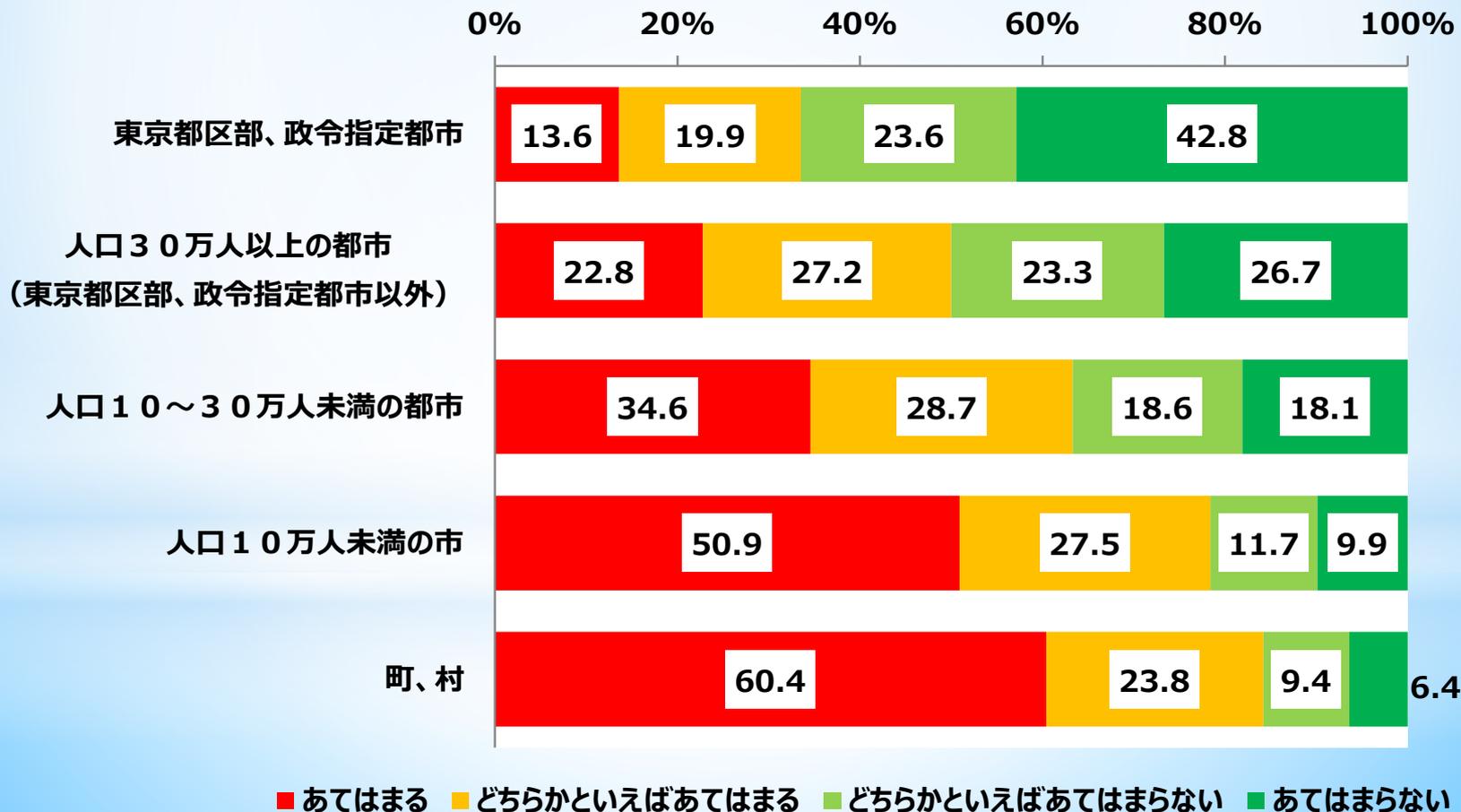
割付		大都市圏	中小都市
男性	18-19	100	100
	20代	500	500
	30代	500	500
	40代	500	500
	50代	500	500
	60代	500	500
	70代	500	500
女性	18-19	100	100
	20代	500	500
	30代	500	500
	40代	500	500
	50代	500	500
	60代	500	500
	70代	500	500
		6,200	6,200
		12,400	

【調査の内容（調査項目）】

- ◆FACE
- ◆モビリティの実態（自家用車・公共交通機関）
- ◆移動手段の状況と感覚（外出先・手段・時間・負担感等）
- ◆事故遭遇・ヒヤリハット経験
- ◆地域特性・モビリティに対する意識・日常生活実態・高齢期移動への意識
- ◆高齢期のモビリティと免許返納
- ◆自動運転についての意識と利用実態
（オーナーカー・サービスカー）
- ◆自由回答

日常生活を送る上で自家用車が不可欠

「町、村」の都市規模では8割以上で自家用車が不可欠
大都市圏でも3割以上が自家用車に依存する傾向

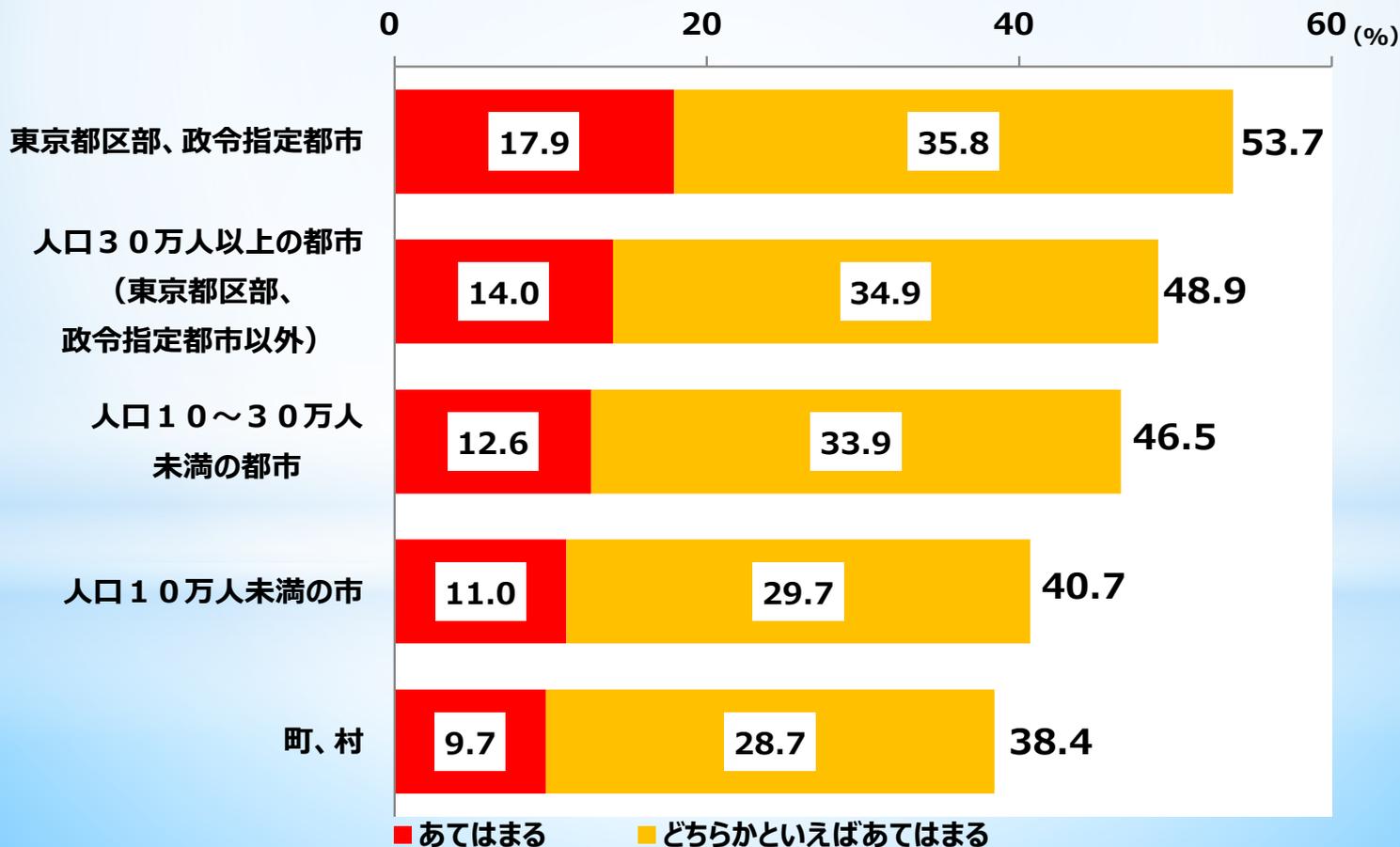


交通手段があっても、歩いて移動することがよくある（一駅分歩く、あえて歩くなど）

都市規模が小さいほど、人は歩いて移動しない

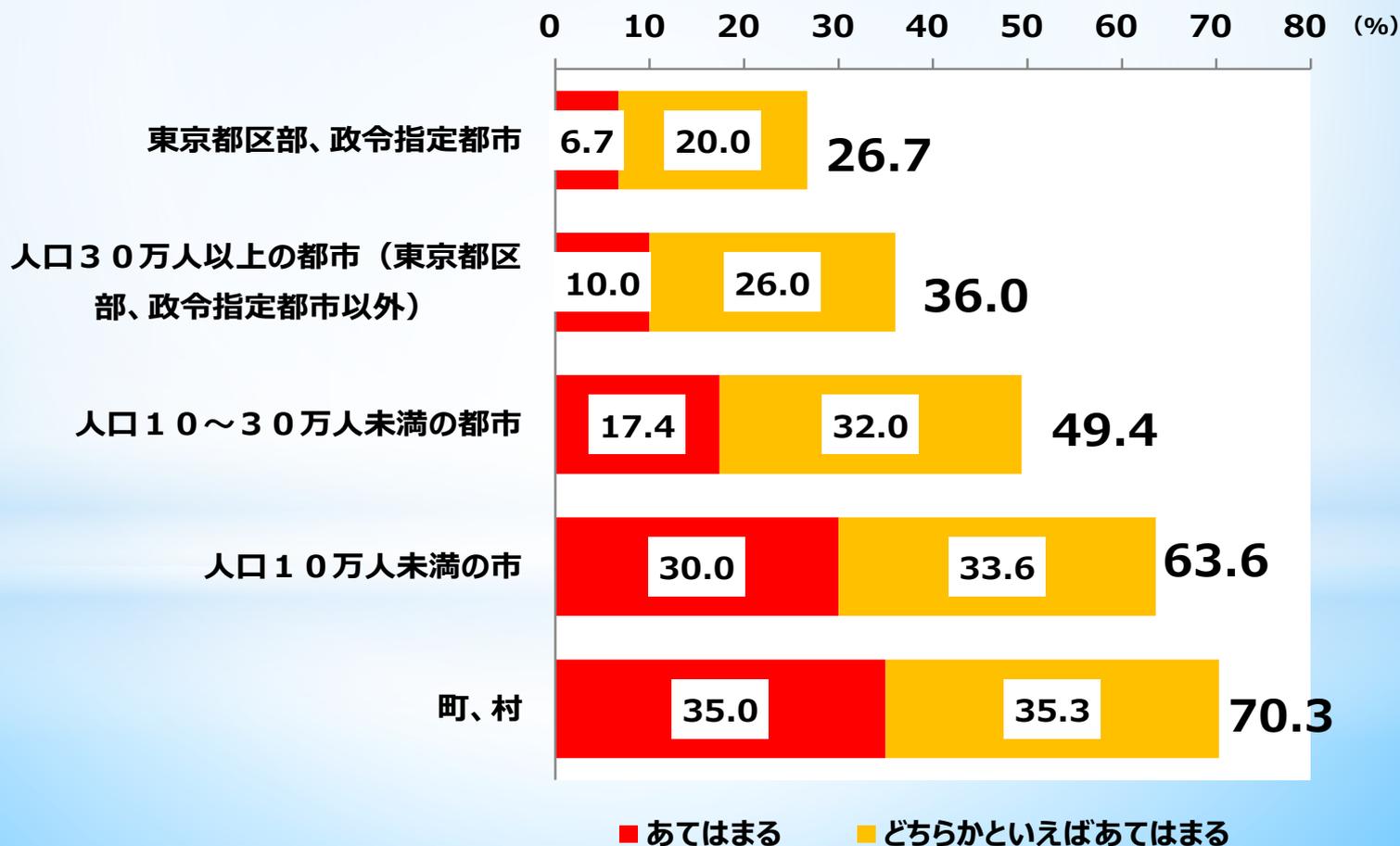
⇒ 歩いていかれるところにも車を利用している可能性が高い

⇒ 都市規模が小さいほど、車が使えないことは大きな課題となる



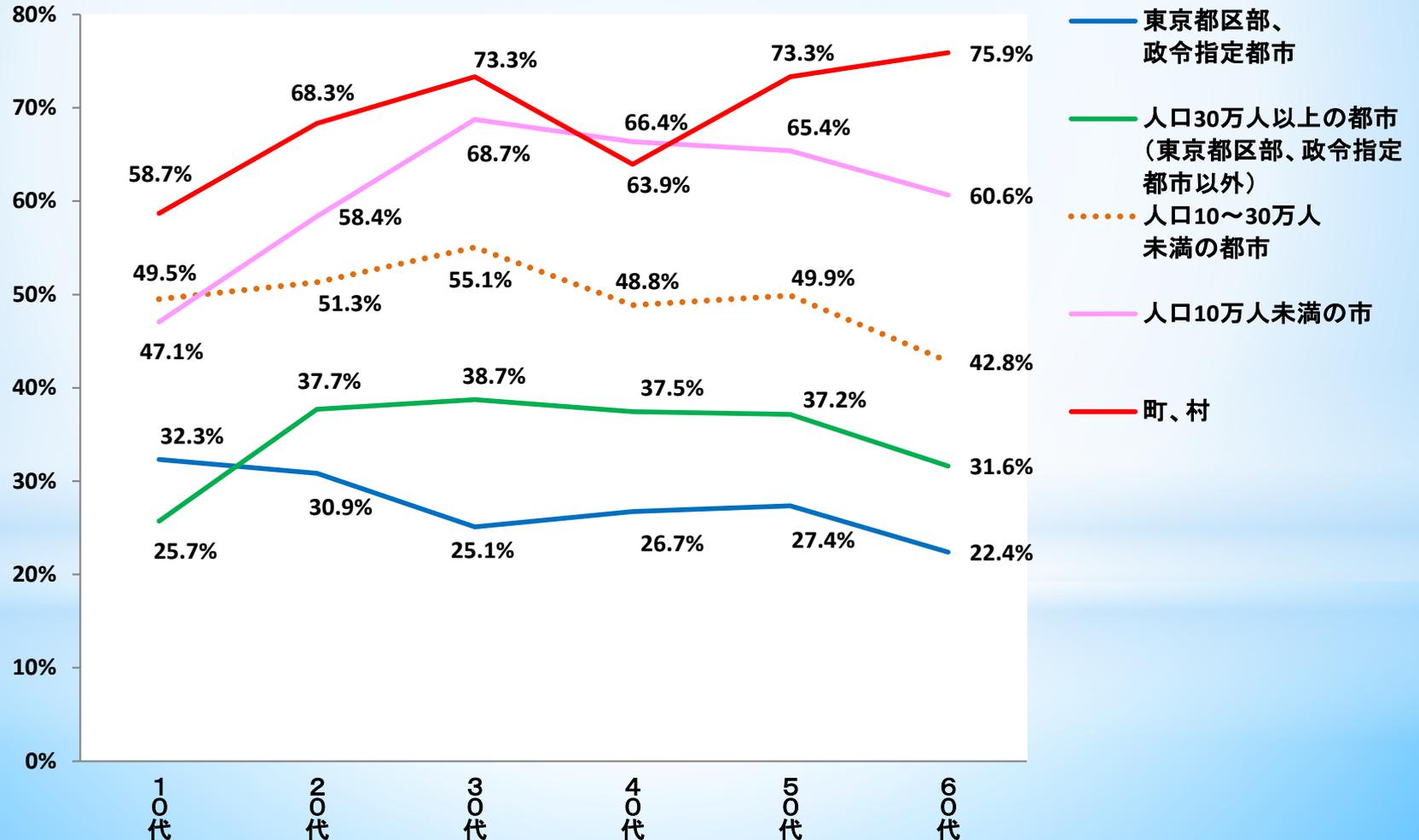
今住んでいる地域では高齢期の移動に不安がある 1

高齢期のモビリティに不安がある人は都市規模が小さいほど多い
「町、村」では7割超が不安に感じている



今住んでいる地域では高齢期の移動に不安がある 2

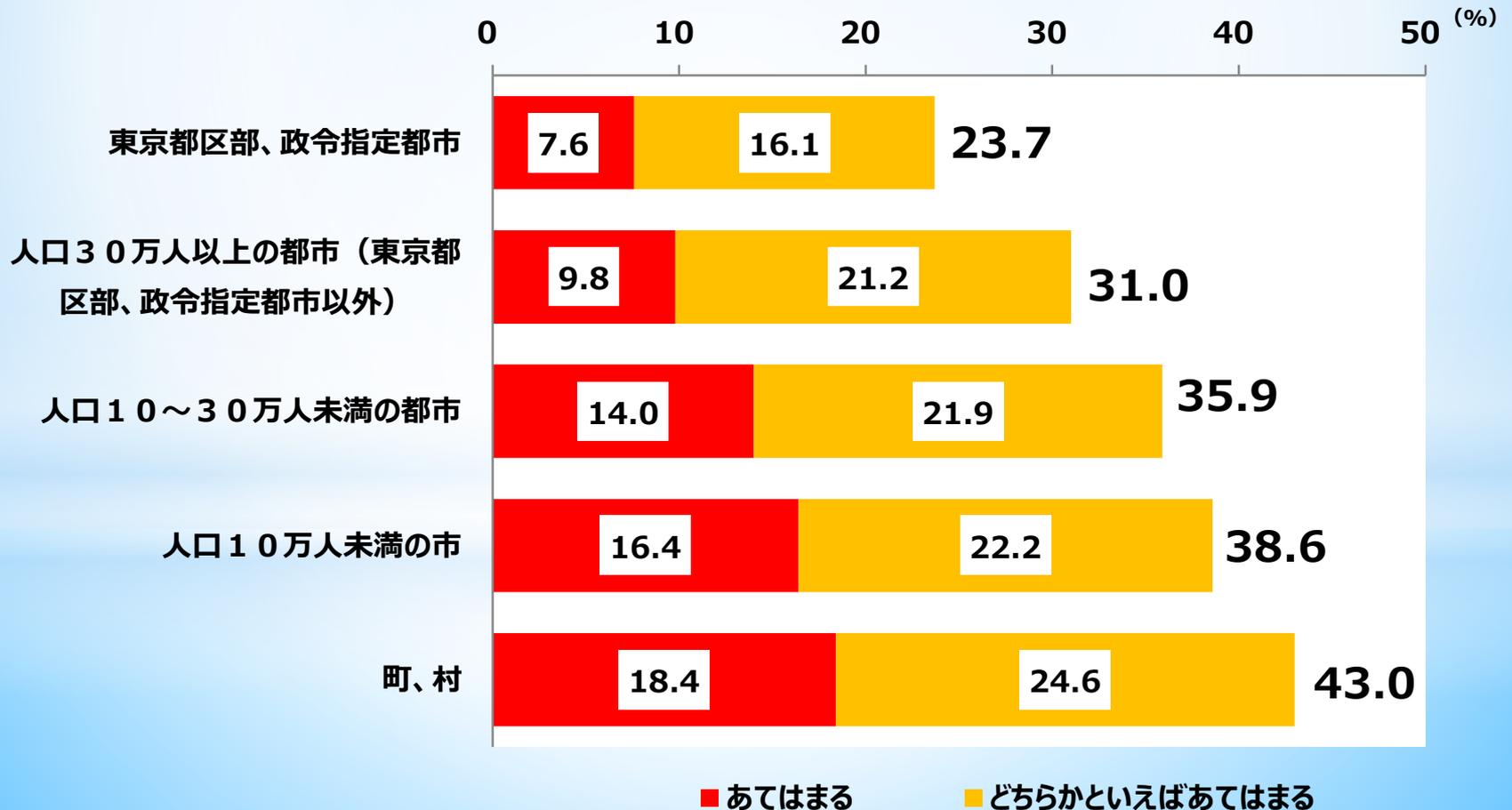
「町、村」在住の60代で最も不安が高い
「町、村」と「東京都区部」の60代の差は53.5ポイント



家族へのモビリティ依存

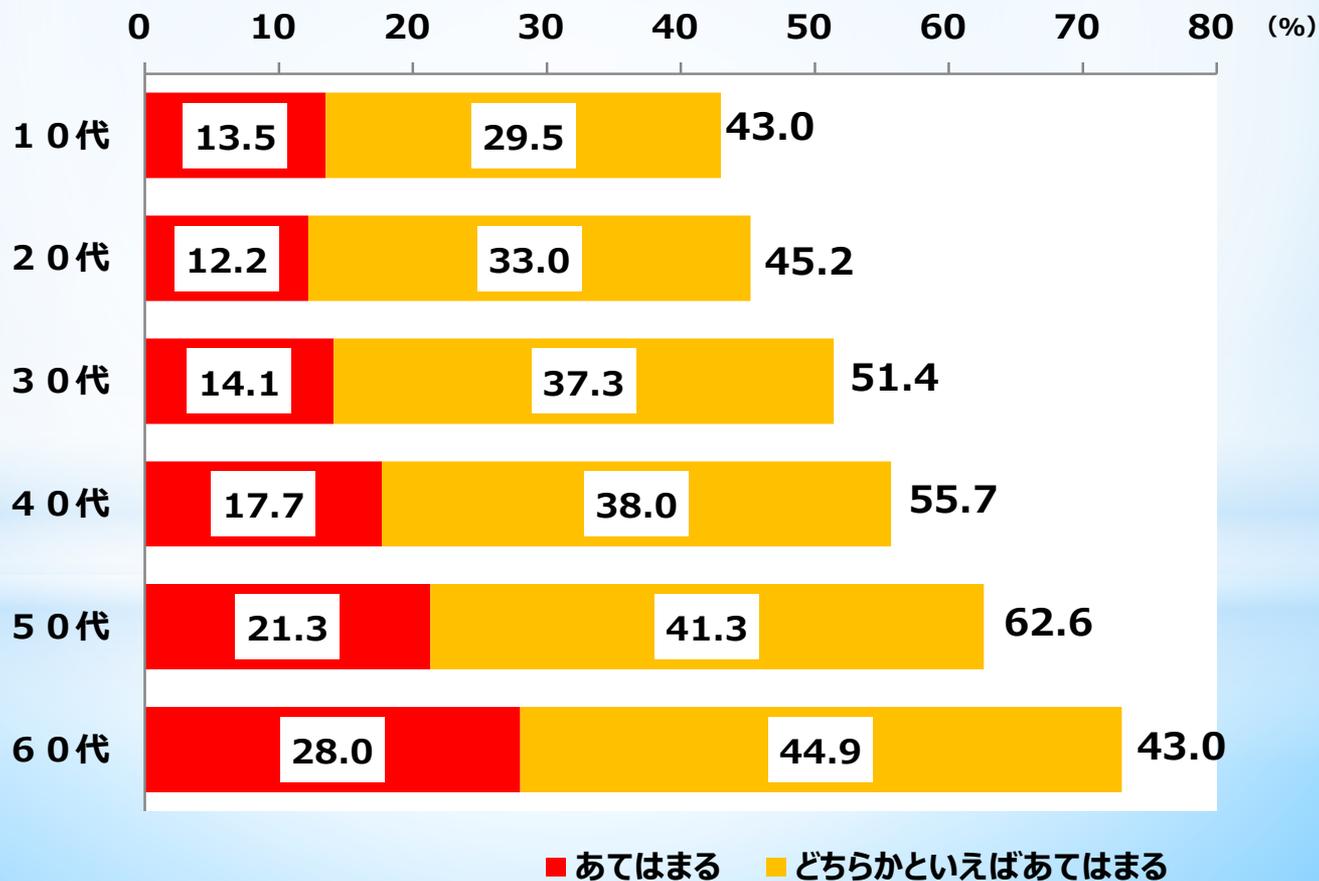
「普段、自家用車で家族の送迎をする・してもらふことが多い」人は
都市規模が小さくなるほど多い

「町、村」では4割以上が家族が自家用車で送迎する習慣あり
高齢世帯・一人暮らしが増加傾向＝家族に頼れない人も増加の可能性



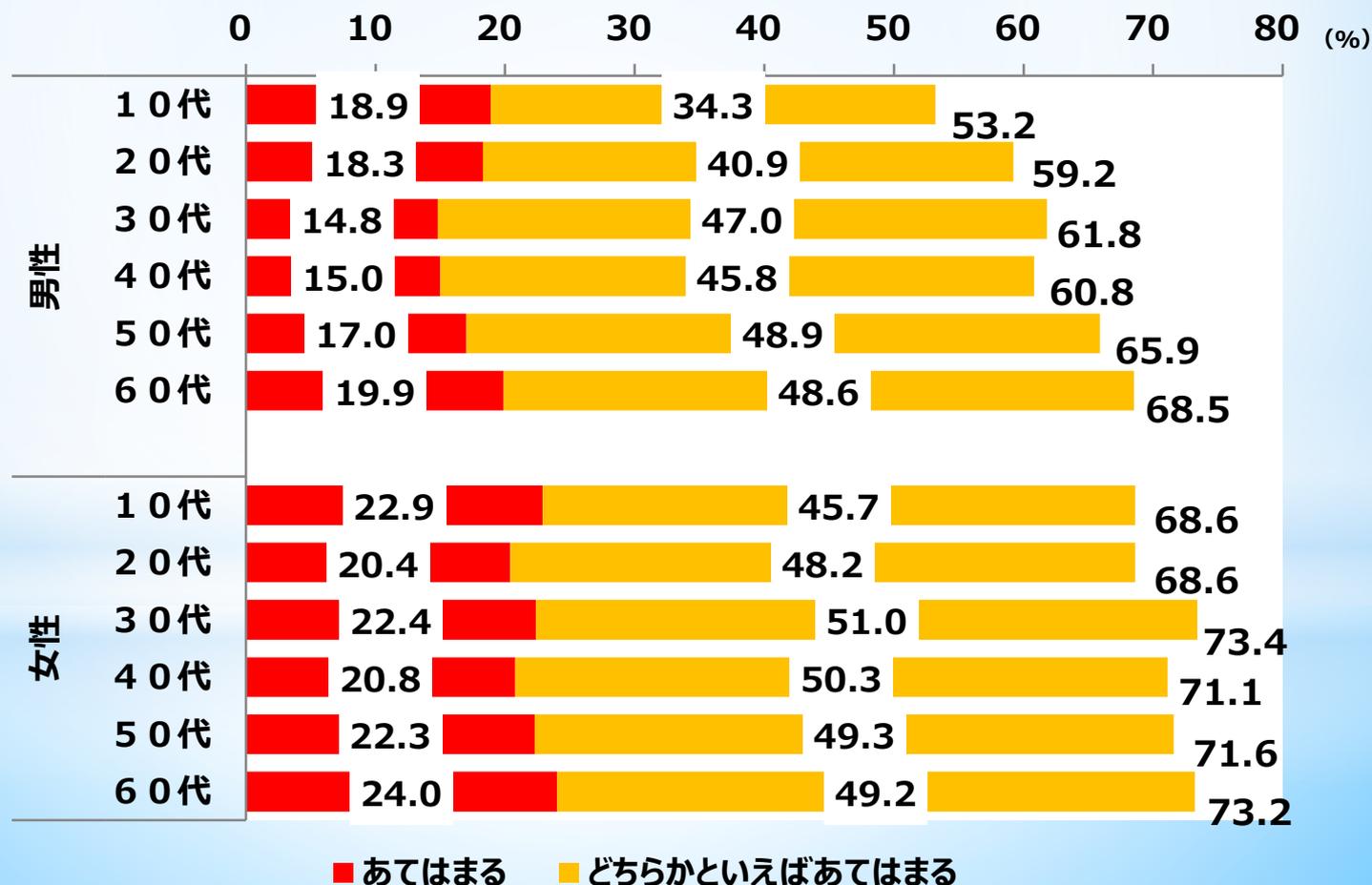
高齢期は、今住んでいる地域に住み続けたい

年代が高くなるほど「今住んでいる地域に住み続けたい」とする年代が高いほどリロケーション・ダメージが懸念されるモビリティに困る年齢になってから転居するのは厳しい



自動車が使えなくなっても、 他の手段を使うことができれば積極的に外出したい

高齢になるほど車に代わる交通手段の利用意向は高い
特に女性でその傾向が強い



高齢期のモビリティ確保による 生活の質向上・健康寿命延伸への期待

モビリティ確保による生活の質向上・健康寿命延伸への期待は
女性で特に高い
年代が高いほど期待が高く、生活の質・健康寿命ともに8割を超える

